

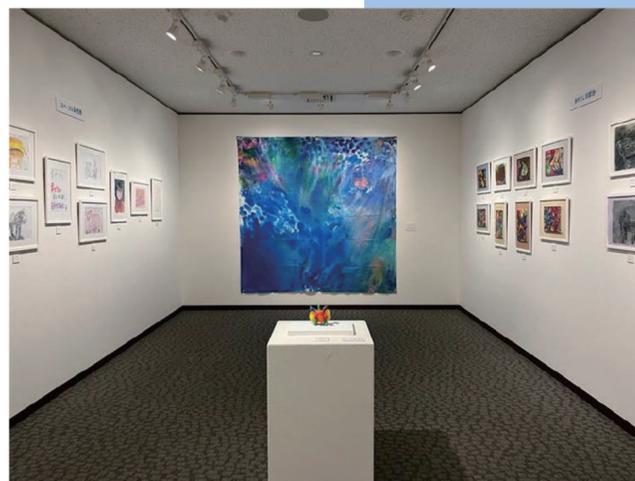
障がい者の「生きる」に寄り添うコミュニティケア

提供学科：看護学科、福祉総合学科

◎ 目的

本プロジェクトは、地域で生活されている障がいのある方々の「生きる」に寄り添い、コミュニティを通じたケアの実践、地域共生社会の実現を目的としています。

「地域との繋がりに乏しい」現実を抱えた障がい者の課題解消に向け、『風のアール・ブリュット × ココロ・ポリリズム JIU ～障がい者の生きた芸術展～（水田美術館）』と『障がいのある方々のハンドメイド作品の販売』の2つの活動を実施しました。



◎ 実施内容

- ・アール・ブリュット制作の現場を見学
- ・アール・ブリュット芸術展の実施
- ・アール・ブリュット制作の過程の動画作成、及び、来場者からのメッセージを作者に届ける企画・制作
- ・ハンドメイド作品の販売
- ・障がい者施設の視察
- ・障がい者との交流会の実施、及び、関係性の構築
- ・大学祭での販売会の実施
商品提案、及び、販売促進ツールの提案・作成

地 域 × 城 国 生

◎ 学びの効果

学生たちは、障がいをもたれた方々との関わりを通して、「障がいは、その人の個性である」ということに気付くと共に、自身の障がい者への偏見に気付き、障がい者の「生きる」に寄り添う姿勢が養われました。「地域との繋がりに乏しい」という障がい者の地域課題に対し、2つの活動を通して、障がい者が「繋がる」ための企画を行い、想像力、遂行力を養うこともできました。学生は、このような機会を増やすことが障がいをもつ方の自己実現の第一歩であると感じ、活動の必要性を実感しています。

また、本プロジェクトを通して、障がいをもたれた方々にも変化がみられました。ひきこもり状態だった方が活動に参加する姿、未来への希望を抱く姿など、学生との関わりが生んだ結果です。まさに、障がい者の「生きる」に寄り添うことで、コミュニティケアが実践され、地域共生社会実現に向けた一歩となりました。